

福井・一乗谷朝倉氏遺跡

いちしょうだにあさくらし

- 1 所在地 福井市東新町字青木・御所口
- 2 調査期間 第八四次調査 一九九三年(平5)十一月～二月
- 3 発掘機関 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
- 4 調査担当者 岩田 隆・佐藤 圭・水村伸行
- 5 遺跡の種類 城館跡・城下町跡
- 6 遺跡の年代 戦国時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一乗谷は戦国大名越前朝倉氏の城下町で、福井市街中心部の東南約一〇kmに位置する。一九七一年、国の特別史跡に指定され一乗谷朝倉氏遺跡と名付けられた。



(大野)

さらに一九九一年には遺跡内の四庭園が国の特別名勝に指定され一乗谷朝倉氏庭園と命名された。本遺跡は代表的な戦国時代の大名城下町の遺跡である。

今回の第八四次調査は一乗谷の主要部分を区画する

大きな土塁である上城戸の南四〇〇m付近を調査地とし、昨年に引き続き県道鯖江・美山線改良工事に伴う事前調査として実施した。既に圃場整備が行なわれているため、大きく段切りされているところには遺構が残っていないが、盛土されたところには残っており、溝や溜枿(石組遺構)、石敷などが検出された。その溜枿のわきの焼土層から越前焼・カワラケ・漆器片・木製品・竹製品などとともに木簡の断片一点と将棋の駒一枚が出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・ □ ツミ

・ × □ 文

(65) × (28) × 4 081

(2) ・ 「歩兵」

・ 「今」

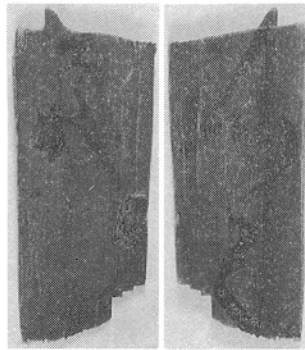
28 × 17 × 4 061

(1)は上下が欠けていて形態を明らかにすることができない。墨痕は筆画が良好に残り、片面には草仮名で「ツ」「ミ」と記され、その上に文字の残画が連続している。もう片面には二字の文字が残りの字は「文」の草体、上の字は貫の下半分の残画に似ている。したがってもと「貫文」と書かれていたものと推定される。この二字の下は余白となり字が連続しない。両端部が失なわれたことが惜しまれるが、一乗谷の銭関係の墨書資料として貴重である。伴出した

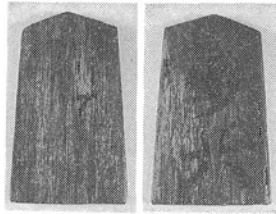
(2)は将棋の駒(歩兵)で、裏面の文字は「今」の草体であることが判読される。

なお赤外線テレビによる判読について福井県立博物館の仁科章氏のご高配を得た。

(佐藤 圭)



(1)



(2)

石川・戸水大西遺跡

とみずおおにし

- 1 所在地 石川県金沢市戸水町
- 2 調査期間 一九九三年(平5)五月～八月
- 3 発掘機関 金沢市教育委員会
- 4 調査担当者 出越茂和・吉本澄弘
- 5 遺跡の種類 官衙跡か
- 6 遺跡の年代 八世紀後半～九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(金 沢)

戸水大西遺跡は、金沢市街地の西方に位置し、日本海まで約3kmと近い。遺跡の北約1kmには大野川が流れ、南西約2kmには犀川がある。大野川と犀川の下流部はともに水上交通の要衝にあたる。当該遺跡は、両河川に挟まれた標高2m強の低微高地に立地する。

戸水大西遺跡の調査は、鞍月土地区画整理事業に伴うもので遺跡の全面発掘を目的としている。一九九二年